

1. この企画書を導入する目的

本企画書は、企画の是非を「感覚」や「その場の雰囲気」で判断することを避け、**神奈川県ピリヤード協会として一貫した基準で判断**するためのものです。

これまで理事会では、「良い企画だが時期的に難しい」「公益性は高いが負荷が大きい」「企画自体は否定しないが協会事業としては適さない」といった判断を、**議論の中で個別に行って**きました。

本企画書は、それらの判断基準を **事前に可視化** することを目的としています。

2. この企画書で判断できること（要点）

① 協会の活動趣旨に合致しているか

企画の目的が「公益性の高い活動なのか」「加盟店舗・会員の交流促進なのか」「私益性が強いものなのか」を **企画提出者自身が明示** します。

これにより理事会は、「協会として **優先的に取り組むべき企画か**」「時期や状況次第で検討すべき企画か」「協会事業としては見送るべき企画か」を判断できます。

② 企画の「優先度（高・中・低）」を整理できる

企画は以下の3段階で整理されます。

- **高**：公益性が高く、協会の存在意義に直結する活動
- **中**：加盟店舗・会員の満足度向上、交流を目的とする活動
- **低**：私益性が強く、協会が主体となる必要性が低い活動

これにより、

- 「良い企画だが今はやらない」
- 「形を変えれば実施可能」
- 「協会事業外として実施すべき」

といった判断を**否定ではなく整理**として行うことができます。

③ 今やっても事務局がパンクしないか

企画書では、「必要な準備項目」「想定される準備期間」「運営人数・協力者の有無」「事務局・加盟店舗の負荷」を事前に確認します。

これにより理事会は、「他の事業と重なった場合の影響」「人手不足によるリスク」「実行体制が整っているか」を **承認前に判断** できます。

④ 収支の妥当性を判断できる

収入・支出は **表形式** で記載され、「エントリーフィー」「協賛金」「会場費」「運営日当」「賞典・備品」などの **内訳が明確** になります。

理事会では、「黒字・赤字そのものではなく」「**概算の根拠と考え方が妥当か**」を判断できます。

⑤ 協賛・賞典対応の負荷が見える

賞典や協賛が発生する企画については、「協賛の有無」「協賛内容」「対応担当者」を明記します。これにより、「協会が過度な営業行為を担っていないか」「誰が対応するのか未定ではないか」を事前に確認できます。

⑥ 規模と集客の現実性が見える

「想定参加人数」「集客方法」「その根拠」を記載することで、「規模に対して運営が適切か」「集客が楽観的すぎないか」を理事会で判断できます。

⑦ 企画後の「振り返り」が前提になる

企画書には、「事後に確認する項目」「アンケート実施の有無」「報告・共有方法」が含まれています。

これにより、「やりっぱなしの企画を防ぐ」「次回判断の材料を残す」という **協会としての学習サイクル** が成立します。

3. この企画書を使うことで起きる変化

① 判断が属人化しない

「誰かの感覚」「その場の空気」ではなく、**企画書に書かれた情報を基に判断**できます。

② 見送った企画の理由を説明できる

「企画の否定ではなく」「優先度・時期・負荷の問題」として整理できるため、企画提出者との関係が悪化しにくくなります。

③ 事務局の負荷集中を防げる

「実施前に負荷が見える」「協力者が必要な企画は早期に把握できる」ことで、**事務局が後から無理をする構造を防止**します。

4. 理事の皆さまへのお願い

本企画書は、「企画を増やすためのものではありません」「企画を止めるためのものでもありません」
協会として「やるべきこと・今はやらないこと」を整理するための道具です。

ご理解のうえ、企画書の各項目を見ながら理事会にて「可・条件付き可・見送り」の判断をお願いいたします。